

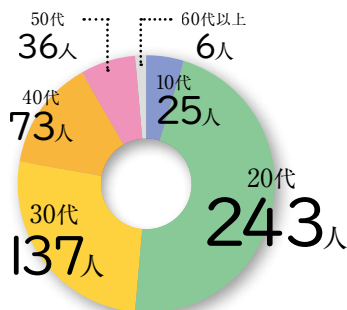
PFF Award 2022

[コンペティション部門] PFFアワード2022

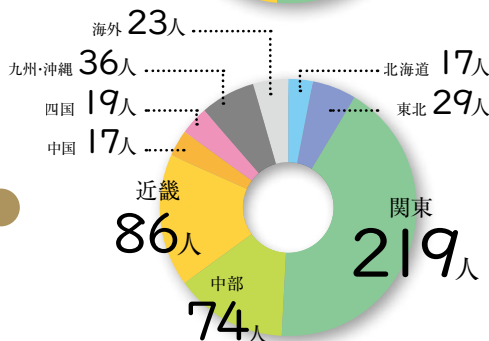
自主映画のためのコンペティション「PFFアワード2022」は、3月から6月まで4か月をかけて、18名のセレクション・メンバーが、一次選考は1作品を4名で、二次選考は18名全員で拝見し、討議を重ね、入選作品を決定します。ここからは、会場あるいは配信でご覧になる皆さん、そして、最終審査員による各賞の選考が始まります。同時に、映画祭ならではのスペシャル「スクリーン上映」と、上映後の「質疑応答」も始まります。これから羽ばたいていく新人監督を、是非この映画祭で発見してください。

年齢

平均年齢：31.7歳
最年少：14歳
最年長：72歳

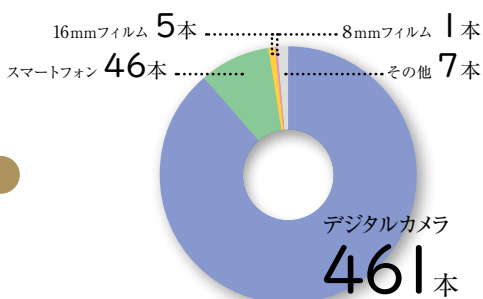


出身地



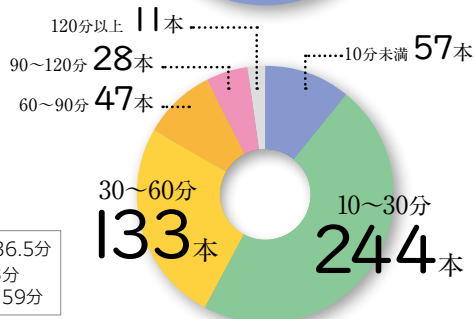
応募作品データ 応募本数:520本

撮影機材



上映時間

平均分数：36.5分
最短時間：3分
最長時間：159分



PFFアワード2022入選作品は、この18名でセレクションしました。

荒木啓子 (PFFディレクター)
稲垣美音 (装飾美術制作)
榎本高太郎 (映画版權営業)
大川景子 (映画編集者)
大久保 涉 (ライター/編集者/パブリシスト)
樺沢優希 (字幕翻訳者/劇場スタッフ)
木村奈緒 (フリーライター)
久保田ゆり (PFFスタッフ)
谷元浩之 (映像事業プロデューサー)
長井 龍 (映画プロデューサー)
中山雄介 (PFFスタッフ)
新谷和輝 (ラテンアメリカ映画研究者)

セレクション・メンバー ※敬称略。五十音順

ニコDEM カロラク
(InlanDimensions International Arts Festival
芸術総監督)
髭野 純 (映画プロデューサー)
前田実香 (映画監督/配給)
村上由規乃 (俳優)
森川和歌子 (映画人材育成事業スタッフ)
和島香太郎 (映画監督)

〈入選作品データ〉

入選本数：16本
年齢：平均26.5歳(最年少：20歳/最年長：40歳)
上映時間：平均51.9分(最短：12分/最長：93分)
今年は、60分以上の長編作品が7本入選。入選作品の平均時間も、昨年36.1分が今年は51.9分と大幅に長くなりました。



菊地健雄 KIKUCHI Takeo

映画監督

助監督として瀬々敬久監督、黒沢清監督、レオス・カラックス監督、石井裕也監督らの作品で活躍。出身地足利市を舞台にした『ディア・ディア』（15年）で監督デビュー後も、恩師の作品の助監督を務めるなど軽やかなネットワークをみせる。その後、『ハローグッバイ』（16年）、『望郷』（17年）、『体操しようよ』（18年）でも卓越した手腕をみせ、近年は、テレビ東京ドラマ24『生きるとか死ぬとか父親とか』などのドラマ作品から、Amazon Prime Video『ショート・プログラム』、Netflixシリーズ『ヒヤマケンタロウの妊娠』など世界配信作品まで積極的に活動中。



©野宮義典

玉川奈々福 TAMAGAWA Nanafuku

浪曲師・曲師

出版社勤務の1995年、二代目玉川福太郎に曲師（三味線）として入門。師の勧めにより2001年より浪曲師となり2006年名披露目。古典のみならず、その卓越したアイデアとセンスで、落語・講談・能・オペラ・音楽・文学・映画など、多ジャンルの表現と浪曲との共演や新作創作などをプロデュースし、定席の浅草木馬亭のみならず、様々な観客、会場に広く新風を吹き込んでいる。2018年から渋谷ユーロライブ「浪曲映画祭」の企画を監修。同年文化庁文化交流使として、海外7か国に浪曲を届ける。2019年第11回伊丹十三賞を受賞。



©横山翔平

とよた真帆 TOYOTA Maho

俳優

高校在学中にモデルデビューし、パロディレクシオンにも出演。1989年女優デビュー。以降多数のTVドラマや映画、舞台に出演。2001年カンヌ映画祭コンペに出品された『月の砂漠』で青山真治監督と出会い、パートナーとして併走。女優業の他にプロデューサー、画家、京友禅の絵師と着物デザイナー、家具などの木工、手芸など、その多岐に渡る芸術的な好奇心と才能、造詣の深さでも著名。ハンドメイドの普及に貢献した著名人・クリエイターを表彰する「JAPAN Handmade of THE YEAR 2018」を受賞。

最終審査員 ※敬称略。五十音順

PFF Award Competition 2022 Juries



三島有紀子 MISHIMA Yukiko

映画監督

18歳から自主映画を撮り始め、大学卒業後NHKに入局。『NHKスペシャル』などで市井の人々を追うドキュメンタリーを企画・監督。独立後、フリーの助監督として活動。ニューヨークHBスタジオのワークショップに参加。オリジナル脚本・監督作品『しあわせのパン』（12年）で注目され、『ぶどうのなみだ』（14年）、『縫い裁つ人』（15年）と続く。『幼な子われらに生まれ』（17年）は、第42回報知映画賞監督賞など国内外で受賞多数。最新作『Red』（20年）、イタリアで特別上映の発端となった短編『よるこびのうた Ode to joy』や『IMPERIAL大阪堂島出入橋』の気骨ある演出も注目される。



光石 研 MITSUISHI Ken

俳優

高校在学中『博多っ子純情』（1978年）の主役に抜擢されて俳優デビュー。以来、映画、ドラマ、舞台で名バイプレイヤーと呼ばれ、特に映画では欠かせない存在として、インディペンデントから日本のメジャーやハリウッド映画まで200本に及ぶ多彩な作品で活躍。同郷の青山真治監督との縁は深く『EUREKA/ユリイカ』（01年）で、第16回高崎映画祭最優秀助演男優賞受賞。近作は『由宇子の天秤』（21年）、『メタモルフォーゼの縁側』（22年）、『異動辞令は音楽隊!』（8月26日より公開）、ドラマ『六本木クラス』（テレビ朝日）など。

PFFアワード 2022各賞

※各受賞者には、PFFスカラシップへの挑戦権が贈られます。

〈最終審査員が選ぶ3賞5作品〉

グランプリ 〈副賞100万円〉

映画監督として最も期待したいつくり手に贈られます。

準グランプリ 〈副賞20万円〉

グランプリに迫る才能を感じさせるつくり手に贈られます。

審査員特別賞 〈副賞10万円〉

無視することができない才能を感じさせるつくり手に贈られます。

〈PFFオフィシャルパートナーの選ぶ賞〉

エンタテインメント賞

（ホリプロ賞）

作品の優れたエンタテインメント性に対して贈られます。

映画ファン賞（ぴあニスト賞）

一般審査員による賞。「映画館で見たい」才能に対して贈られます。

〈観客の選ぶ賞〉

観客賞

観客の人気投票により、最も高い支持を得た作品に贈られます。

★観客賞に投票しよう!

ご来場のお客様、およびDOKUSO映画館でご覧になった方の投票により、観客賞を決定します。ぜひご投票ください!

『アクト』

2022年/カラー/78分 2018年度立教大学現代心理学部映像身体学科スカラシップ助成作品

監督・出演・撮影・編集：田中夢

出演・撮影：山科圭太/出演・撮影：吉澤慎吾/出演・撮影：川部良太/出演・撮影：森田麻美

出演：川部ちがや、田中吐夢、南波典子、稲毛礼子、松田正隆

PFF Award 2022

9.10 ⑤ 11:30~
9.15 ⑥ 18:30~

私はどう生きる？ 切実なセルフ・ドキュメンタリー！

「私どんなバカになっていったらいいの？」監督のその言葉にドキリとする。小さな命を世話しながらの俳優・学生生活。家族がいても、いや、いるからこそ孤独。そんな中にもあるたしかな喜び。膨大な時間をかけ、監督は大きな瞳とカメラでその全てを捉え、個人的で社会的な傑作を完成させた。

必死に動き回る監督の姿を見つめていると、ふと余裕の表情で見つめ返される感覚がある。「それで、あなたはと思う？」とでもいうふうに。この才能に出会ってしまったら無視できない。『アクト』はあなたに発見されることを強く欲している。

樺沢優希 (字幕翻訳者/劇場スタッフ)

program A



監督：田中夢

たなか・ゆめ/1983年生まれ、千葉県出身。舞台に立ち始めた19歳の時から、いつか自分が監督した作品をつくりたいと思いはじめ。映画を学ぶため、30代で立教大学に入る。本作は、同校のスカラシップ作品に選出され制作した。



Q1 この映画を撮ろうと思ったきっかけを教えてください。

出産後、今までできていた俳優活動や生活が難しくなり何度も心が折れそうになりました。そんな時、育児をしながら活動をしている女性俳優がどんな生活をしているのか疑問に思い、話を聞いて自分の生活を変えたい、生きるヒントを掴みたいと思ったのが映画を撮るきっかけになりました。

Q2 監督から、スタッフ、キャストのご紹介を自由にお願いします。

当初カメラマンは私だけでしたが、家族も撮りたい時に何気なくカメラを回したり、いつの間にか出演者である俳優の山科圭太さんと吉澤慎吾さんも撮影してくれるようになり、私だけでは捉えきれなかった時間が記録されました。

出演者の息子にはどこまでが本気が演技か分からず常に翻弄されてました。

Q3 最近、映画以外で最も心動かされたことは？

実家に帰って家族に会ったこと。母、妹、弟、父と話をしたり、古い実家や新しい実家、昔から知ってる風景を見て、これまでは思い出したり、これからを想像したり。そして、初めて自分の息子と海で泳いだり。

Q4 人生を変えた映画を教えてください。

『彼女の名はサビーヌ』監督：サンドリーヌ・ボネール

『石川君、行け!!』

2022年/カラー/80分

制作・監督・脚本・撮影・編集：高階 匠

制作・録音・美術：田幸 翔/音楽：澤田栄一/音楽協力：中村太紀/歌：ことりゆき

出演：石川大輝、宮路乃々子、三浦泰隆、関 直軌、宮田宮太郎

PFF Award 2022

🕒 9.11 @ 17:30~
9.16 @ 12:00~

独特の笑いと爽やかな余韻。正真正銘のエンタメ作品

東京でサラリーマンとして暮らす石川は、かつて自主映画界の鬼才として名を馳せた映画監督だった。ある日、石川の才能を今でも信じて疑わない宮田という男が現れ、彼の地元・ナカイド町の為にPR映画を作って欲しいと懇願する。宮田の熱意に負けた石川は渋々とナカイド町に向かうが、一癖も二癖もある住民たちとの出会いをきっかけに厄介な事件に巻き込まれてしまう。予測不能な展開とそれに困惑する石川のぼやきが面白いが、映画作りの夢を取り戻していく過程もまた丁寧に描かれている。独特な笑いのセンスと王道の青春映画のように爽やかな余韻が楽しめる作品。

和島香太郎 (映画監督)

program

B



監督：高階 匠

たかしな・たくみ/1989年生まれ、東京都出身。早稲田大学入学後、映画研究会で映画制作を始め、現在も働きながら、当時の仲間たちと自主制作を続ける。18年に『Good bye, Eric!』、20年に『霞姫霊異記』でPFFアワードに2度入選。



Q1 この映画を撮ろうと思ったきっかけを教えてください。

10年ほど前に『石川君、行け!!』という長編自主映画を企画し、数年かけて完成させたものの、公の場での発表の機会を得ることができませんでした。その後、何本かの短編・中編の自主映画を制作するうちに、今なら10年前の企画をより良い形でレポートできるのではないかと考えて再挑戦したのが本作です。

Q2 監督から、スタッフ、キャストのご紹介を自由をお願いします。

制作の田幸翔君がいなくては完成できなかった作品です。主演の石川大輝さんは10年前の企画時にも主演してもらった大学時代の映画研究会の先輩。音楽の澤田栄一君はSPORTS MENというバンドで活躍しているミュージシャンで、いつも素晴らしい音楽を作ってくれます。(字数の関係で他の方紹介でさすみません!)

Q3 最近、映画以外で最も心動かされたことは？

映画以外であまり心が動かない人間でして…笑。
子供のころからプロ野球のオリックス・バファローズ(以前はブルーウェーブ)というチームのファンで、昨年の25年ぶりの優勝は長年の野球ファン歴の中でも最も興奮した瞬間でした。あとは落語も好きで、生前の柳家小三治師匠の「長短」を生で見れたのも良い思い出です。

Q4 人生を変えた映画を教えてください。

『ガメラ3 邪神(イリス)覚醒』監督：金子修介

『彼は誰時(かわたれどき)』

2022年/カラー/15分

監督・編集・撮影：谷本桃子

一部撮影：谷本久世/指導：齋藤正和

出演：谷本元徳、谷本久世、谷本元太郎、谷本桃子

PFF Award 2022

🕒 9.11 ⑩ 17:30~
9.16 ⑤ 12:00~

母のカメラと娘の編集が、亡き父との関係を捉え直す

父親が突然倒れて亡くなってから6年が経った。残された家族は映像と共に思い出を語り始める。本作は母親が撮り溜めたホームビデオと、娘である作者が撮影した現在の風景によって構成されたドキュメンタリーである。映像に映る父親の丸い背中と一瞥は、彼に苦手意識を持っていた母親の本音を引き出し、過去と現在を行き来する作者の編集の手つきには亡き父への思慕の念が表れている。これは家族のまなざしを積み重ねていく喪の作業なのかもしれない。お墓にとってかわる映画の中には父親の魂が眠っていて、作者がその中へ入っていくように思えた。

和島香太郎 (映画監督)

program **B**



監督：谷本桃子

たにもと・ももこ/2000年生まれ、青森県出身。高校時代に所属した放送部でつくった、ドキュメンタリー番組で映像に関わる。映画制作は本作が初めて。現在、名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科に在学中。



Q1 この映画を撮ろうと思ったきっかけを教えてください。

本作品は昨年2021年10月に開催された学内の作品展に向けて制作した。父が亡くなった時に残った父の最後の旅行記録の映像がとても印象深かったため、違った形で残したいと感じた。本来忘れていくであろう父が動いている姿や声が、残った映像のおかげで忘れずにいられることを思い起こし、改めて父と向き合うため制作した。

Q2 監督から、スタッフ、キャストのご紹介を自由をお願いします。

谷本元徳 (キャスト)：父。頑固でお酒と音楽と家族が大好き。

谷本久世 (キャスト)：母。声のみでの出演。おしゃべりと家族が大好き。母が撮影し残してくれた映像が本作品の主軸となっている。

谷本元太郎 (キャスト)：兄。ホームビデオでのみ出演。仮面ライダーと家族が大好き。

Q3 最近、映画以外で最も心動かされたことは？

舞台「ハリーポッター」を鑑賞した時。生で、この目で、現実世界で魔法を見ることが出来たことにとても興奮し心動かされた。舞台だからできる演出やセットを人が作り上げていることにさらに感動した。

Q4 人生を変えた映画を教えてください。

『パコと魔法の絵本』監督：中島哲也

『暮れる』

2022年/カラー/52分

監督・脚本・編集：竹田優哉

撮影・機材協力・編集協力：李 小庭/照明：眞木健斗/録音・整音：田中俊充/助監督：橋川 幹

出演：木下皓一郎、柴田惇朗、服部昭美、たけひこ

PFF Award 2022

🕒 9.13 ㊗ 12:00~
9.17 ㊗ 18:30~

ただ「在る」ことの豊かさを映す珠玉の52分

祖母と愛犬と暮らす青年は持病に悩まされながらも静かな日々を送っている。ある日の散歩中、山で出会ったキャンプ中の男性と会話をするうちに、青年は将来への不安や自分の思いを吐露していく…。

持病やニートなど重なりがちなテーマではあるが、この映画は悲壮感をまったく感じさせない。一貫した静かな語り口のあまりの心地よさに、二人の会話を延々と聞きたくなる。そして何よりも青年の美声に驚かされる。さらに夜の八時には寝てしまう自然体のおばあちゃんがとても魅力的。どこか不思議で心地よいこの空間に52分間浸ってほしい！

森川和歌子（映画人材育成事業スタッフ）

program

E



監督：竹田優哉

ただけ・ゆうや/1996年生まれ、広島県出身。立命館大学映像学部卒業。在学中にフィールドワークに魅了され、大学院で文化人類学を専攻する。研究の傍ら本作を制作。この春から東京のドキュメンタリー制作会社で働いている。



Q1 この映画を撮ろうと思ったきっかけを教えてください。

映画の主演も務めてくれた友人と2人で、何かしらのアウトプットを共有しあう活動を定期的に行っていました。活動場所は彼の家族が所有する家で、山がすぐ近くにありました。

その近所の山の雰囲気と友人の存在からインスピレーションをもらい、この土地と彼で何か映画を作りたいと思い立ったのがきっかけです。

Q2 監督から、スタッフ、キャストのご紹介をお願いします。

木下皓一郎（キャスト）：彼ありきの映画。

柴田惇朗（キャスト）：救世主。

服部昭美、愛犬たけひこ（キャスト）：映画のリアリティ。

李 小庭（撮影・機材/編集協力）：生命線。

眞木健斗（照明）：頼もしい存在。

田中俊充（録音・整音）：安定感抜群。

橋川 幹（助監督）：自由人。

Q3 最近、映画以外で最も心動かされたことは？

巣作り、産卵、孵化、と成長を見守っていたツバメたちが巣立ったこと。

Q4 人生を変えた映画を教えてください。

『マイ・マザー』監督：グザヴィエ・ドラン

『J005311』

2022年/カラー/93分

監督・脚本・編集・製作：河野宏紀

撮影：さのひかる/録音：榊 祐人/製作：野村一瑛

出演：野村一瑛、河野宏紀

PFF Award 2022

🕒 9.11 ⑨ 11:30~
9.16 ⑤ 18:30~

正反対の男二人の静かなる衝突が生む奇跡!

1mmも気が合わないであろう、一つとして同じ経験を共有できなさそうな二人の、運命の旅。二人の役者の顔がいい。神崎役の100%不幸でできていそうな表情と、山本役の不安を押し隠すような苛立ち。音楽も使わず、執拗な長回しと下手すぎる二人の会話で、気まずさ・重苦しさに観客を巻き込みながら描かれる、93分のロードムービー。

監督と役者が小細工無しで作上げた物語はストレートに響く。金さえもらえば知ったこっちゃない、とでも思っていそうな軽薄な山本に、終盤、「頼む!何とかなしてくれ!」と願っている自分がいた。

榎本高太郎 (映画版權営業)

program

C



監督: 河野宏紀

こうの・ひろき/1996年生まれ、神奈川県出身。約5年前から俳優として活動を始め、養成所の同期で本作主演の野村一瑛と共に映画制作を構想。俳優を続けるかを悩む中、監督として作品を残したいと決意し、本作を制作した。



Q1 この映画を撮ろうと思ったきっかけを教えてください。

死んでしまいたいことと生き抜くこと。そんな思いをふと考えてしまうことがあります。人生の中で最も大切なことは、優しくなることだと思っています。本当の意味で優しくなるとはどういうことなのだろうかとずっと考えていますが分かりません。そんなことを考えてるうちに映画で表現してみたいという思いから始まりました。

Q2 監督から、スタッフ、キャストのご紹介を自由にお願いします。

野村一瑛 (俳優) : 決してお芝居は上手くはないが、彼の芝居に惹かれる時が多々ある。今回体を張った演技で主演を務めてくれました。

さのひかる (撮影) : 今回が初の映画撮影でしたが、納得のいく画を撮ってくれました。榊 祐人 (録音) : 普段は監督業もこなし、映画の知識はかなりのもので、今回現場を支えてくれました。

Q3 最近、映画以外で最も心動かされたことは?

減量しなければいけないことがあり、体重をマイナス10キロ程落としました。初めての減量で、毎日が苦痛で大変だったのですが、ふと人間の幸せの7~8割は食にあるんじゃないかと思ってしまい、なんだか哀しくなり、僕にとってとても感慨深かった。

Q4 人生を変えた映画を教えてください。

『ファニーゲーム』監督: ミハエル・ハネケ

『瀉血』

2022年/白黒/86分

監督・脚本・編集：金子優太

撮影：正木智也/録音：江幡 悠

出演：金子優太、佐竹遙人、翠野 桃、吉田共朗、石神リョウ

PFF Award 2022

🕒 9.10 ⑤ 14:45~
9.15 ⑥ 12:00~

狂暴な家族の“血”か、偶然か。悩める少年の選択に震撼

恐怖。露悪的。共鳴。現実的。独善。社会批判。計算づくか。衝動ゆえか。絶望か。解放なのか。混乱したまま言葉を連ねてしまった。ただ、そう語りたいとも思った。脳裏に焼付く画の数々。暴力的な家庭、彼らと同じ“血”が流れる己を厭うような垂れる高校生の主人公。秀でた友の姿を模倣し始めたのは変身への渴望か。あれ程迄の行為をせすにはいられないのは“血”か偶然か。監督/主演の金子優太さんが露わす半自伝的と謂う生の有様がまだ一言で語りきれない。多くの人と話したい。その中で気付く事があると思う。構図や編集も注目。

大久保 渉 (ライター/編集者/パブリリスト)

program

D



監督：金子優太

かねこゆうた/2002年生まれ、東京都出身。小学生の頃から映画が好きで、大学入学後に映画サークルに所属。書籍やYouTubeを参考に、独学で映画制作を学び、初監督作品として本作を制作した。現在、青山学院大学理工学部物理学科に在学中。



Q1 この映画を撮ろうと思ったきっかけを教えてください。

まず一番最初に自分が作る映画は自分の半自伝的な内容にして、観客に「金子優太」という人物がどんな人間なのかを知った上で、今後作るであろう他の映画も観てほしいからです。

Q2 監督から、スタッフ、キャストのご紹介を自由をお願いします。

カメラマンの正木智也や録音の江幡悠などのスタッフは同大学の映画サークルの友人。映画を作った経験はなく、手探りの状態で撮影の準備に入った。その後、ネット上で募集記事を掲載し翠野桃さん、佐竹遙人さん、吉田共朗さん、石神リョウさんが役者として撮影に参加。一部のキャストは人手が足りない際は照明や録音にも協力。

Q3 最近、映画以外で最も心動かされたことは？

大学の英語の講義でダーウィン進化論とカンブリア爆発がディスカッションの話題になり、自分が今まで絶対に正しいと信じていた進化論の「抜け穴」が見つかって、「科学も極限まで研究したら宗教的になるな」と改めて実感した時。

Q4 人生を変えた映画を教えてください。

『めまい』監督：アルフレッド・ヒッチコック

『水槽』

2022年/カラー/51分

監督・脚本・編集：中里有希

撮影：永山愛美/制作：溝江楓花/録音：渡辺咲樹/制作・録音：井崎 愛

出演：木川田菜南、北田俊輔、鈴木由美子、大崎 章、石山千晶

PFF Award 2022

9.13 ⑧ 12:00~
9.17 ⑨ 18:30~

雪景に煌めくガール・ミーツ・ボーイ

東北の地から生まれた、鮮烈な青春映画。高校生の主人公は、ある日図書館で見かけた同級生の姿に心惹かれる。化学室に移ると、彼は金魚の解剖をしていた。彼はその行為によって「からっぽ」じゃないことに安心するのだった。

主演俳優の存在感が素晴らしく、彼女の表情とともにこの世の輪郭を掴もうとするかのような撮影、破り捨てられかけた言葉たちを通して詩情が立ち上がっていく。散りばめられた赤と白のコントラストも印象的。人を愛することの危うさを抱えながら、時が止まりかけた世界で二人は再び出会い呼応する。

髭野 純 (映画プロデューサー)

program E



監督：中里有希

なかざと ゆうき/2001年生まれ、山形県出身。東北芸術工科大学デザイン工学部映像学科に入学後、映画制作を始める。本作で初めて劇映画を制作。脚本段階では10分の短編だったが、自身のリズムで撮り始めたところ、51分の作品が完成した。



- Q1** この映画を撮ろうと思ったきっかけを教えてください。
「死んでしまいたい」と、わたしの周りの人たちが言っていて、引き留める方法がわからなかったから。
- Q2** 監督から、スタッフ、キャストのご紹介をお願いします。
キャストは映像学科の1年生(当時)と教授と、地元の劇団員の方と同級生のお母さん。スタッフは、みんな友だちです。専攻は映画に限らず、アニメや写真を制作している子もいました。また、東京の大学で社会学を勉強している子やエンジニアを目指している子もいて、全員が端から映画を作りたかったのかはわかりませんが、極寒のなかで一人一人が躍動していました。
- Q3** 最近、映画以外で最も心動かされたことは？
旅行先の神社で手を合わせているとき、うなじの辺りをふっと大きな蛇が飛んでいて、その羽の振動がなにか神聖な息吹のように感じられたこと。もっと素直に生きられたらいい。
- Q4** 人生を変えた映画を教えてください。
『小さな悪の華』監督：ジョエル・セリア

『スケアリーフレンド』

2022年/カラー/76分

監督・脚本・編集・音楽・撮影・美術：峰尾 宝/監督・脚本・編集・音楽・美術：高橋直広

撮影：峰尾 和

出演：峰尾 桜、高橋直広、峰尾 宝、峰尾 和

PFF Award 2022

🕒 9.13 ⑨ 18:30~
9.18 ⑩ 11:15~

「つくる」ことのエネルギーに満ち溢れた力作

自作のぬいぐるみが友達に孤独な少女・ぬいこ。自転車で人を轢き殺すと噂の殺人鬼・ヤバチャリ。「現実の友達」をつくらうと、ぬいこが街にでかけると、そこにはヤバチャリの姿があって……。ぬいこやバチャリ、喋って歌って踊るぬいぐるみたちが織りなす「友達」をめぐる物語。針一本、布一枚、カメラ一台でも、こんなに面白い世界がつくれるという事実に拍手喝采。ぬいこは言う。「変でもいいんだよ、心がこもれば」。不格好でもいいから手を動かしてみる。そうすればほら、こんなに楽しい。観たら誰もが「つくりたい」衝動に駆られるはず！

木村奈緒（フリーライター）

program

F



監督：峰尾 宝・高橋直広

みなね・たから（右）/1998年生まれ、東京都出身。大学の課題で初挑戦した、ストップモーションが上手くいったことから、映画制作に着手。

たかはし・なおひろ（左）/1999年生まれ、神奈川県出身。何か作品をつくりたくて、中学時代からの友人である峰尾と共に作品づくりを始める。



Q1 この映画を撮ろうと思ったきっかけを教えてください。

（峰尾）映画が好きでとりあえず1本つくろうと思い、共通の趣味を持つ友人・高橋を制作に誘って見たところ乗り気だった。「ハロウィン」を観た高橋が、殺人鬼ものをやりたいとの事で、自分も好きなのでつくことに。短編のつもりで考えていたが、脚本を描くうちに長くなり、長編作品になった。（高橋）『ハロウィン』を観て殺人鬼ものが撮りたくなったんです。

Q2 監督から、スタッフ、キャストのご紹介を自由にお願いします。

（峰尾）制作から演者までこなし高橋のクリエイティブな才能/作品を見る力は計り知れない。主演の峰尾桜は演技に関してド素人。しかも映画の内容を把握していないのにも関わらず、その場の指導で想像を超える素晴らしい演技を見せてくれた。（高橋）監督で友人の峰尾は天才的なストップモーション職人でぬいぐるみ制作技術もありえないくらい発展させていきました。

Q3 最近、映画以外で最も心動かされたことは？

（峰尾）ずっと恨み嫌悪していたUFOキャッチャーを最近大人になってからやってみたところ、大きなぬいぐるみが割と簡単に計画通りに取れた時「あ、取れるんだ！」と感動とともに達成感と計画性の大切さ、頭脳、技術力の向上を感じ結構胸踊った。今もハマってる。（高橋）白丸ダムの魚道を見に行ったら巨大な階段の迫力に圧倒されました。

Q4 人生を変えた映画を教えてください。

（峰尾）『キック・アス』監督：マシュー・ヴォーン
（高橋）『バットマン リターンズ』監督：ティム・バートン

『バンド』

2022年/カラー/28分

監督・脚本・編集：河村 陸

助監督：木田龍馬/撮影：白田悠太、中村健佑/録音：内藤 悟

出演：石倉宙樹、小池大徳、ねこじま、大平智之、関 寛之

PFF Award 2022

🕒 9.11 ⑩ 11:30~
9.16 ⑤ 18:30~

想像した未来を捨てて向かう、青春の終わり

タイトル通り、「音楽」ではなく「バンド」を題材とした本作。「一度、人を殴ってみたい」という衝動的な思いからボクシングを始めた石田は、強さを見込まれ試合を重ねていく。大学でのバンド活動に興味を失ってしまった彼はそれを打ち明けるが、幼馴染の小峰からは卒業ライブでの解散を提案され…。

先の読めない独特の緊張感に覆われているが、どこかユーモラスで憎めない。目には見えづらいが大切にしてきた何かを本作は掬い取る。終盤の量み掛けるような展開が圧巻、あの飛躍とともに示される結末を見届けてほしい。

髭野 純 (映画プロデューサー)

C
program



監督：河村 陸

かわむら・りく/1997年生まれ、千葉県出身。大学のお笑いサークルに入るも一切ウケず挫折。サークルでの映像コント制作を機に、映画美術学校に入学。小学校から大学院まで一緒に知る人・石倉宙樹を主演に本作を制作した。



Q1 この映画を撮ろうと思ったきっかけを教えてください。

友人が突然ボクシングを始めました。理由は特にないそうで、「あえて言えば、人を殴る、人に殴られることがどのようなことが普通に気になっただけ」と言われました。どういふことかわからなかったで、そういう人を主人公にした映画を撮ろうと思いました。

Q2 監督から、スタッフ、キャストのご紹介を自由にお願いします。

主役の石倉の顔や喋り方には誰もが思わず笑顔になってしまう魅力があります。こんな人ばかりだったらそれはとてもよい世の中でしょう。一方で、彼の表情は中立的で特定の感情や考えが想定しにくくもあります。その分、本作を観る人は彼の内面の状態がすぐには指定できず、思いを巡らせてくれることになるでしょう。

Q3 最近、映画以外で最も心動かされたことは？

知人と初めて楽しい会話ができた。

Q4 人生を変えた映画を教えてください。

『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』監督：アルフォンソ・キュアロン

『ふちしすこ』

2022年/カラー/69分

監督・脚本：亀井史興

撮影・照明：深谷祐次/録音：新井希望/編集：小林 望

出演：亀井史興、磯村 央、岡部成司

PFF Award 2022

🕒 9.14 ㊟ 12:00~
9.18 ㊟ 17:30~

東京ひとり暮らし。思い出す家族のこと。

“ふちしすこ”って何？ それは、主人公・亀ちゃんの兄が、子供の頃に作っていた家族新聞のタイトル。そう、本作は家族のお話。でも、映るのは東京で一人暮らしをしている亀ちゃんの日常。おつまみの豆を茹でたり、電話をかけたり、なんでもないのにずっと目が離せない空気感で、監督のセンスに圧倒される。

決して説明的ではないのだけれど、友人とのクセになる会話劇を通して、亀ちゃんが家族を想う姿が浮かび上がってくる巧みな構成に、ハマること間違いなし！ しばらく実家に帰ることができていない、そんなあなたにこそ見てほしい。

前田実香 (映画監督/配給)

program

G



監督：亀井史興

かめい・ふみおき/1981年生まれ、新潟県出身。役者として活動しながら制作した、初監督作品『シャシャシャ』がPFFアワード2018に入選。本作は『シャシャシャ』を撮影した2017年から構想をはじめ、約5年をかけて完成した。



- Q1** この映画を撮ろうと思ったきっかけを教えてください。
ある日、ふと兄弟の話を映画にしたいと思ったから。その後、自分が“何か”を作りたいと思う原点が兄の影響と家族の環境にある事を思い出したからです。
- Q2** 監督から、スタッフ、キャストのご紹介を自由をお願いします。
深谷祐次 (撮影・照明)：作って探して見て、映画にするカメラマン
新井希望 (録音)：つかまえた音だけで、そこに聞こえて欲しい音を作るサウンドデザイナー
小林 望 (編集)：つなげるだけではない、奥行きを作る編集人
磯村 央 (役者)：真剣に力をぬいて“しゃべる”演技
岡部成司 (役者)：穏やかで確かな存在と届く声
- Q3** 最近、映画以外で最も心動かされたことは？
PFF入選の連絡をいただいた時に電話を見た瞬間。
- Q4** 人生を変えた映画を教えてください。
ありません。

『ポラン』

2022年/カラー/74分

監督・撮影・編集：中村洸太

音楽：山崎裕太

出演：石田恭介、石田智世子、南 由紀

PFF Award 2022

9.14 ⑧ 18:30~
9.17 ⑨ 11:15~

誰かの大切な居場所。ある古本屋の話

コロナ禍で苦戦するミニシアターを支援しようと、全国から多くの寄付金が集まった時の衝撃を思い出した。たまにしか行かなくても、かけがえのない出会いをした大切な場所が、人にはあるものだ。

多く人にとってそんな場所であった古書店の最期の日々。店主は閉店の日も変わらず一冊一冊丁寧に本をならべ、お客はそれぞれのお気に入りの棚で、本を探し楽しみ、出会う喜びをかみしめる。この店に幼い頃から親しんできた監督が、店が解体され、がらんどうになるまで記録し続けた。その後も本とかわり続ける店主夫婦と店員の姿に心が救われる。

久保田ゆり (PFFスタッフ)

program



監督：中村洸太

なかもろ・こうた/1998年生まれ、東京都出身。中学時代に友人と初めてホラー映画を作る。立教大学社会学部在学中は、映画制作サークルに所属。現在は京都大学大学院 人間・環境学研究科 修士課程で、「映画館と映画観客」について研究している。



Q1 この映画を撮ろうと思ったきっかけを教えてください。

ポラン書房を舞台にして劇映画を撮影させてもらう予定がもともとあったのですが、その準備期間中に閉店のことを知りました。幼いときから通っていたポラン書房の魅力的な空間、そこに集う人々を映像として記録しなければならないという強い気持ちから、ひとりでカメラを回し始めました。

Q2 監督から、スタッフ、キャストのご紹介を自由にお願いします。

本作は、ポラン書房店主の石田恭介さん、恭介さんの公私にわたるパートナーである石田智世子さん、ポラン書房の社員で現在は江古田で古書店snowdropの店主である南由紀さんを中心に、ポラン書房の辿ってきた軌跡、そして閉店後の3人の足取りを描いています。ポラン書房を訪れた方々にも多数ご出演いただきました。

Q3 最近、映画以外で最も心動かされたことは？

先日、サイレント映画上映時にピアノを伴奏する「楽士」の鳥飼りょうさんにインタビューをする機会がありました。鳥飼さんが楽士になられるまでの、まさに「事実は小説よりも奇なり」という言葉がふさわしいような、いくつもの偶然の出来事の重なりで感銘を受けました。

Q4 人生を変えた映画を教えてください。

『アウト・ワン』監督：ジャック・リヴェット

『MAHOROBA』

2022年/カラー/14分

監督・原案・映像・編集・音楽・制作：鈴木竜也

出演：及川耕平、工藤海里

PFF Award 2022

🕒 9.10 ⑤ 11:30~
9.15 ⑥ 18:30~

沈んだ2020年の世界を、映画の魔力で塗り替える！

〈Tokyo 2020〉禍の街で働く主人公の孤独な闘争を、芳醇な香りただよう洒落っ気と、映画への愛情あふれる茶目っ気で彩った、ととても甘美な物語。映画の主人公はいつだってピンチをチャンスに変えてきたけど、この主人公はそのルールを既に知っていて、非常自体でも決して動じない。そんな余裕ある姿がとっても色っぽいのです。

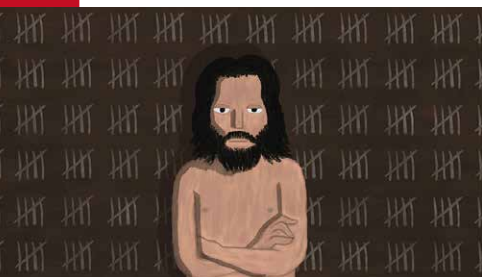
いや、そもそも、本作が醸し出す艶かしさには、ステイホーム中に独学でアニメーションに挑んだという監督自身の悠然さも含まれているのかもしれない。

内実共に徹底して色気に満ちた作品に、心はくすぐられる！

長井 龍 (映画プロデューサー)

program

A



監督：鈴木竜也

すずき・りゅうや/1994年生まれ、宮城県出身。東北芸術工科大学在学中に制作した『バット、フロム、トゥモロー』が、PFFアワード2018に入選。卒業後、映像制作会社勤務を経て、現在は歌舞伎町のバーで雇われ店長をしながら映画を制作している。



Q1 この映画を撮ろうと思ったきっかけを教えてください。

緊急事態宣言でお暇ができ、たまたま観た『キャスト・アウェイ』からヒントを得て、ほとんど直感的に作り始めたこと記憶しています。未経験だったアニメーションでの制作を選んだのは、人もお金もかからないから。あとなんか、圧倒的なものを作れる気がしたからです。

Q2 監督から、スタッフ、キャストのご紹介を自由をお願いします。

ほとんど台詞のない本作の、おわりに登場する2人組。声を演じてくれたのは、高校の同級生です。及川耕平と一緒に組んだ文化祭のバンドで速弾きしすぎて指を痛めていた、PCに詳しい優しい男で、工藤海里はいつどのタイミングで話しかけても永遠に『永遠の0』を読んでいた、寡黙なお笑いフリーク。協力に感謝です。

Q3 最近、映画以外で最も心動かされたことは？

小学校のタイムカプセルに入っていた手紙に「20年後の自分はきちんとした人になりたいです」と書いてあったこと。

Q4 人生を変えた映画を教えてください。

『君が生きた証』監督：ウィリアム・H・メイシー

『the Memory Lane』

2022年/カラー/25分

監督・脚本・編集：宇治田 峻

イラストレーション：Illicit/視覚効果：青井泰輔/音楽：Saqaaafat-e Saqaaafat

出演：先間征哉、宇治田 優、宇治田 峻、清水啓吾、小島裕輝

PFF Award 2022

🕒 9.14 ⑧ 18:30~
9.17 ⑤ 11:15~

映像も街も廃校舎も。世界は大きな遊び場だ

コロナ禍の休校中に閉鎖が決まったキャンパス。もう誰もいないその場所で、3人のスケーターは遊ぶ。閉鎖されようが、道がその先に無かろうが、彼らはスケートボードに乗ってどこへでも行ける。

ブレーキの効かない開放的なライディングで、扉をひょいと跳び越えて、彼らもそしてこの映画自体も、あらゆる境界線を徐々に取っ払い、自由になっていく。

ふざけあっては、笑い転げる彼らは記憶と戯れている。そのことに、はっとさせられる。これは消えゆく場所への「弔い」だ……。留まることができない彼らが開拓した、痕跡の描き方。新しい映画作りがここにあった。

大川景子 (映画編集者)

program H



監督：宇治田 峻

うじた・しゅん/1995年生まれ、和歌山県出身。大学在学中に、PFFアワード2019入選作『さえてたまるか』(清水啓吾監督)の制作に参加。以後フリーランスのカメラマン、楽曲提供者として映像作品に関わる。本作が初監督作品。



Q1 この映画を撮ろうと思ったきっかけを教えてください。

大学在学中に友人たちとよくスケートボードをしており、いつか上手くなったら自分達の手でスケートビデオを作りたいと語り合っていた。しかしスケートビデオを作ることなく月日は過ぎた。やがて僕たちの一番のお気に入りのスケボースポットである大学キャンパスがコロナ渦中に閉鎖されることを知った。撮らねば、と感じた。

Q2 監督から、スタッフ、キャストのご紹介を自由にお願いします。

主演の梅ちゃん(先間征哉)は大学のサークルで出会った後輩。部屋が汚くて腐海と呼ばれている。ちょっちょ(宇治田優)は監督の実弟。いつもレコードを回しながら何かをポコポコ叩いている。雨の日に騒ぐ清水(清水啓吾)は監督にして名優。ダウンヒルをするサイド(小島裕輝)は今では恵まれた体格を活かしてゲーム実況をしている。

Q3 最近、映画以外で最も心動かされたことは？

ロバート・M・パーシンの『禅とオートバイ修理技術—価値の探求』を読み、大学という場の理念と役割、人生を生きながらにして人生を学ぶということに関して深く考えさせられた。

Q4 人生を変えた映画を教えてください。

『パラノイドパーク』監督：ガス・ヴァン・サント

『最も無害で、あまりにも攻撃的』

2022年/カラー/40分

監督・脚本・撮影・編集：中田江玲

脚本：川端真央/衣装・メイク：牧野 渚/音楽：野崎無害、masunoji

出演：日下玉巳、嶋村友美、明澄、田中栄吾、後藤ユウミ

PFF Award 2022

🕒 9.14 ⑧ 12:00~
9.18 ⑨ 17:30~

瑞々しく映したマイノリティの抵抗の物語

別荘地を自転車で走る、くるくるヘアが印象的な主人公・夏帆。出会った女の子は趣味が合って…。滝の水しぶきも緑葉もこの偶然を喜んでいるみたいにきらめいている！これって最高の夏の始まりじゃない？

でも、このサマー・ストーリーにはがいがい。大きな社会構造に気付くが、自分も加担してしまう。疑問は増えていく。ああ、ハエの羽音がうるさい。ついに何かがはじけて、醒める。言葉少なな夏帆の心に吹き荒れる嵐と、抵抗の第一歩。監督はそれらをていねいに立ち上げた。世界で居心地悪さを感じている人に、今すぐこの映画が届いてほしい！

樺沢優希 (字幕翻訳者/劇場スタッフ)

G
program



監督：中田江玲

なかだ・えれ/1998年生まれ、東京都出身。高校時代、UCLAで短期映画製作プログラムに参加。以後、独学で知識を得ながら短編映画やミュージックビデオの撮影・監督を行う。大学の休学期間中に100万円を貯金し、本作を完成させた。



- Q1** この映画を撮ろうと思ったきっかけを教えてください。
フィアのためのカミング・オブ・エイジ・ムービーが日本では十分に作られていないと感じていたため、この映画を構想しました。別荘地での物語という部分では、高校時代に愛読していたサガン「悲しみよ、こんにちは」の影響があります。
- Q2** 監督から、スタッフ、キャストのご紹介を自由をお願いします。
キャストは皆さん私からオファーし、出演していただきました。主演の玉巳さんは映画監督もされていて、内に確固たる物語を持っている方です。麻衣子役の嶋村さんは別の作品にも出演してくださっており、全幅の信頼を置かせていただいています。今回は映画とは異なる分野にいるスタッフに、特別に協力してもらいました。
- Q3** 最近、映画以外で最も心動かされたことは？
エイドリアン・レンカーが2020年にリリースした『songs』というアルバムを改めて聴き、その広大な空虚さと豊かさに圧倒されました。サイモン&ガーファンクルを彷彿とさせる物語性と言葉選びの面白さがあり、長い小説を読み終えたあとのように、生活のなかで頻繁にこのアルバムのことを思い出してしまいます。
- Q4** 人生を変えた映画を教えてください。
『ファイトクラブ』監督：デヴィッド・フィンチャー

『幽霊がいる家』

2022年/カラー/12分

監督・脚本・編集：南 香好

撮影・照明：中瀬 慧/録音：小濱 匠/助監督：小林徳之/制作：松永祐樹

出演：鈴木睦海、金岡秀樹

PFF Award 2022

🕒 9.10 ⑤ 14:45~
9.15 ⑥ 12:00~

巡り巡る記憶のさきの微笑み

タイトルにある「幽霊」とは何を指すのだろうか。とある家で再会したらしい二人の男女のやりとりから始まり、その謎はどんどん深まる。そのうち無人のカメラやマイクが姿を現し、彼らが「本当に言いたいこと」と「セリフだと言えること」も境目を見失っていく。みんな幽霊で、ここはかつての記憶、もしくは虚構がひたすらリプレイされる映画の牢獄？ そう思いかけたとき、不意にやさしい眼差しがこちらを見返す。そうして観客も映画に魅せられた幽霊の仲間になる。映画はすべてを幽霊に変え、真偽をこえてあらゆる記憶を覚えてくれるけど、私たちはそこでたしかに信じられるものを分かちあえる。

新谷和輝 (ラテンアメリカ映画研究者)

program

D



監督：南 香好

みなみ・かすみ/1990年生まれ、神奈川県出身。26歳のとき、フリーターをしながら映画美学校に入学し、映画制作を始める。その後、東京藝術大学大学院映像研究科で制作を続け、現在は京都に移住し、飲食店勤務のかたわら映像制作をしている。



Q1 この映画を撮ろうと思ったきっかけを教えてください。

単純にいま自分が好きだと思える映画を撮ろうというところから始まりました。観る人が軽い気持ちで楽しめるラブコメを撮りたい、けれど同じような恋愛映画ばかりというの…もっとヘンな映画があってもいいのという矛盾した気持ちがそのまま表れた映画になりました。

Q2 監督から、スタッフ、キャストのご紹介を自由にお願いします。

スタッフ・キャスト共に映画美学校で出会った方々です。撮影は現場で一緒にした縁で先輩の中瀬慧さんをお願いしました。ほかのスタッフは自分の同期で、各々自主映画を監督したり、現場助手もしています。キャストの鈴木さん、金岡さんは美学校アクターズコースを修了後、映画や舞台で活動されています。

Q3 最近、映画以外で最も心動かされたことは？

PFFの入選を知って、これまで一緒に映画を撮ってきた人やお世話になった人が連絡をくれたこと。

Q4 人生を変えた映画を教えてください。

『雪の断章』監督：相米慎二

『セリーヌとジュリーは舟でゆく』監督：ジャック・リヴェット

『Lock Up and Down』

2022年/カラー/34分

監督・製作・撮影・編集・字幕: Minami

音楽・音響・製作・編集・字幕: Derek Bui/タイトルデザイン: 飯塚琴美

出演: Minami, Derek Bui

PFF Award 2022

🕒 9.13 ⑧ 18:30~
9.18 ⑩ 11:15~

回復へ向かう眼差しのアンビエント映画

ロックダウン下のハノイの街をアパートのバルコニーから見下ろした日々の記録。目下に立ち並ぶ家の窓には2人と同じく閉じ込められた人たちの姿が見える。人気の無い道の上を犬が歩き回り、バルコニーの柵から鳩が飛び立っていく。

不自由と共に切り取られた景色の一角に、ぽっかり失われてしまったようなあの時が刻々と過ぎていく感覚が蘇ってきた。次第に意識が内へと向かい始め、日が昇り沈んでいく自然のはたらきが身体を抱く自由への渴望をどこかへ還していく姿を目の当たりにすると、この映画の持つ治癒力にはっきりと気付かされる。

村上由規乃 (俳優)

program

F



監督: **Minami**

みなみ/1994年生まれ、北海道出身。東京大学大学院博士課程・プラハ芸術アカデミーに在籍。沖縄移民の歴史とディアスポラについて研究する傍ら、多様な表現方法を模索している。



Q1 この映画を撮ろうと思ったきっかけを教えてください。

ロックダウン中、人との繋がりがや新たな世界との接触を渴望していました。ある日、苦し紛れにビデオカメラを望遠鏡代わりにし、なんとなくハノイの街を眺めていたんです。そうしたら、犬がちょこちょこ歩いてるのを見つけました。それから、街を観察することの虜になりました。そのようにして撮られた映像群が、結果として一つの作品になりました。

Q2 監督から、スタッフ、キャストのご紹介を自由をお願いします。

Derek Bui: 音楽、音響、編集を担当。映画にも出演。ソフトウェアエンジニアとしてのバックグラウンドを持つ、ミュージシャン。

Q3 最近、映画以外で最も心動かされたことは？

Jacob Collier 'Hideaway'

Q4 人生を変えた映画を教えてください。

『ベルリン・天使の詩』監督: ヴィム・ヴェンダース